

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	新出文 献
70107	2007/09/ 21	70537	HIV	Vox Sanguinis 2007; 92: 113- 120	20例の血友病患者が、1990年初頭以降、韓国で製造された血液凝固第IX因子の投与を受けてから1~2年後にHIV-1に感染していると診断された。血漿ドナーと血友病患者で検出されたウイルス間の遺伝子関連性を調べた結果、両者とも、HIV-1サブタイプBの韓国subcladeに感染していた。韓国で売血ドナーの血液から製造された凝固因子により、少なくとも20例の血友病患者がHIV-1サブタイプBに感染したことが明らかとなった。	
70151	2007/11/ 16	70737	HIV	第81回日本感 染症学会総 会・学術講演 会 ポスター P26-1	これまで国内でのHIV-2感染症例はいずれの報告も外国籍患者であった。今回、日本人初のHIV-2感染例を経験した。77歳男性で、36年前セネガルで輸血歴がある。2006年6月、気管支喘息発作で入院となり、入院時HIVスクリーニング検査(ELISA)でHIV抗体高値となった。その後、Western Blot法による確認検査により、HIV-1抗体陰性HIV-2抗体陽性となった。遺伝子解析の結果、HIV-2サブタイプAに属し、セネガル株(60415K株)に最も近縁であった。	
70165	2007/11/ 29	70768	HIV感 染、C 型肝炎、B 型肝炎	第31回日本血 液事業学会総 会 2007年10 月 3-5日 シ ンポジウム4-2	日本赤十字社血液事業本部が関わる安全対策の取り組みと感染リスクについて報告する。平成16年から18年までの3年間に全国の医療機関から日赤血液センターに報告された輸血関連感染症(疑い症例を含む)の報告数は749例であった。日赤の安全対策の実施によりHBV、HCV及びHIVの感染リスクは減少し、安全性は高くなった。しかし、HCV及びHIVも含め遡及調査の実施により確認された感染症例も少なくない。感染拡大を防止するための安全対策を引き続き講じていく必要がある。	11
70112	2007/09/ 28	70553	インフ ルエン ザ	Science 2007; 315: 655-659	1918インフルエンザウイルスのヘマグルチニン受容体結合部位のごくわずかな変化により、ウイルスの伝播性が変化することが示された。2つのアミノ酸変異によって、ヒトの $\alpha$ -2,6シアル酸からトリの $\alpha$ -2,3シアル酸へと転換すると、フェレット間で呼吸器飛沫による感染を起こさないウイルスとなった。さらに、 $\alpha$ -2,6および $\alpha$ -2,3双方に特異性のある1918ウイルスは感染性が低かった。ヘマグルチニン受容体特異性が、哺乳類におけるインフルエンザ伝播に本質的な役割を果たす。	
70112	2007/09/ 28	70553	ウイル ス感染	Canadian Blood Services 2006年12月18 日	2006年12月18日付で、カナダ血液サービスは供血者が供血前に記入する供血記録の間診事項に一部修正を加える。カナダ保健局の指示により、ヒト以外の霊長類(サル、ヒヒ、チンパンジー、アカゲザル、あるいはその血液や唾液)との職業的接触に関する質問を追加した。サル泡沫状ウイルス(SFV)に関する認可された標準検査法がないため、供血者がこの質問に「はい」と答えた場合は無期限に供血延期となる。研究所で霊長類を扱う人、獣医師、動物園職員などが延期対象となるだろう。	
70143	2007/10/ 26	70679	ウイル ス感染	CDC Press Release 2007 年8月22日	米国疾病対策予防センター(CDC)と協力施設の科学者が、よく見られるアフリカフルーツコウモリ的一种において、マールブルグウイルス感染を特定することに初めて成功した。マールブルグウイルスは、ヒトや霊長類に重篤で死に至ることも多い出血熱を引き起こす。コウモリがマールブルグウイルスを保有することが疑われていたが、証拠はなかった。この研究結果はPlos ONEに掲載された。この研究は、マールブルグウイルスの伝播についてより理解し、ヒトにおける感染拡大を予防・減少させる助力になると思われる。	12